

「ふね遺産」(推薦様式): A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の 名称・所属 または所有者	対象物: 木造帆船やまゆり 所有者: NPO 法人帆船やまゆり保存会 神奈川県藤沢市江の島 1-12-2 江ノ島ヨットハーバー内	[船の主要目] 全長 13.3m(43ft.) 水線長 10.75m 幅 4.16m, 喫水 1.7m 排水量 12.4 t. 総トン数 19.6 t. セーリング面積: メイン 38.3m ² , シブ 47.1m ² ミズン 11m ²
2. 対象物の 作成・存在時期	・ 1962 年 3 月に横浜・岡本造船所で進水。 ・ 神奈川県警、江の島ヨットクラブ、やまゆり倶楽部、NPO 法人帆船やまゆり保存会と管理者は変わったが、現在、湘南港(江の島ヨットハーバー)をホームポートとして動態保存されている。	
3. 現状 (写真添付)	・ 湘南港に係留し、同 NPO 法人が動態保存して、諸活動に利用している。  ※写真の説明 左上: 上架中の船、 左下: 係留中の船、 右下: クルーザー中の船  	
4. ふね遺産 認定基準の 該当項目(**)	【認定対象】(1) 人や物資を輸送する船舶のみならず、作業船、艦艇、実験船、調査船、海洋構造物などを含む浮体構造物全般 【認定基準】(1 2) 歴史的に重要で、現在も活用中、または動態保存か初期状態を留めるもの。	
5. 歴史的・ 工学技術的意義	江の島ヨットハーバーに浮ぶ木造の大型帆船「やまゆり」(船型: ケッチ)は、1962 年神奈川県警の警備艇として造られた。1964 年 10 月「第 18 回東京オリンピック」のセーリング会場が湘南・江の島と決まり、現在の湘南港が作られ、「やまゆり」は、警備艇の任務と共に、海外・国内の来賓用観覧艇としても活躍した。東京オリンピック終了後の 1970 年、神奈川県からやまゆりを受け継いだ(社)江の島ヨットクラブだったが、1993 年に設立された「やまゆり倶楽部」が保存活動を推し進め、更に 2013 年 6 月「NPO 法人帆船やまゆり保存会」を結成し、2016 年 10 月所有権も同 NPO 法人に移行され、木造帆船やまゆりの動態保存と共に海とヨットの素晴らしさを広めてきた。国内では 43ft. の大型木造セーリング・クルーザーで現役の船は非常に珍しく、「やまゆり」は日本のヨット史における貴重な「ふね遺産」と考えられる。	・ 下記 6 項資料(3)には技術的な記録もあり、工学的にも裨益する点があると考えられる。同資料には、1964 年東京オリンピックの際、皇太子(現上皇)や議員が乗船された記録も見られる。
6. 参考資料・文献 [(1)~(6)の資料を 添付]	(1) 帆船やまゆりの製造図面、(2) 建造時と進水式の写真集、 (3) 神奈川県警・警備艇「やまゆり」初代艇長の日記抜粋資料 (4) NPO 法人帆船やまゆり保存会の定款、(5)「海とヨットの普及活動の実績」一覧表、(6) 神奈川県・教養月報、舵誌の記事、	(2)は添付写真以外に 59 点あり、必要であれば追加送付致します。

(*) No.は学会で記載します。

(**) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。